令和６年度　がん教育授業の実践研修会

袖ケ浦市立蔵波中学校

教 諭　　築 地　　大 輝

１　はじめに

（１）学校の概要

本校は、昭和６２年４月１日、袖ヶ浦町立蔵波中学校として開校された。同年、７月に新校舎が竣工し、８月に袖ヶ浦町立長浦中学校から移転した。ＪＲ長浦駅から徒歩３０分程度という立地である。学区は袖ケ浦市北部に位置し、東西５ｋｍ、南北３ｋｍの学区である。北側は長浦地区と接し、東部は市原市、南東部は平川地区、南部は根形地区、南西部は昭和地区と隣接している。本校は学区のほぼ中央部に位置している。近年の宅地開発も進み、一時期、生徒数も増加を続けていたが、現在は全校生徒５００名程度を推移している。現在は、各学年、通常学級５クラスで、特別支援学級が４クラスの袖ケ浦市内の中では大規模校となっている。

本校の学校教育目標は、「心豊かで 自ら学び たくましく生きる生徒の育成」であり、スローガンとして、「－ Never give up. Challenge！ －　～ 認めあい 高めあい 支えあい そして「ありがとう」 ～」を掲げている。日々、努力をして高みを目指し、自分自身を信じて可能性に挑戦する「Never give up.Challenge！」そして、自分や仲間のこと、お互いの良さや人柄、違うところも含めて大切にする「認めあい」、仲間と全力で競い、議論する「高めあい」、悩んだり、苦しんだりしてもお互いに声をかけ、話を聞き、一緒に考える「支えあい」、これら３つの「あい」を大切にすることから、「ありがとう」の感謝の気持ちが自然と生まれてくる。これを全ての教育活動の中心に据え展開しているところである。

（２）生徒の実態

今回授業を実施したクラスの特徴は、全体的に保健体育への関心度が高い傾向にあった。集団の中には、仲間に的確な指示を出し集団をまとめるリーダーが数名おり、日常生活においても班長を中心とした班活動を行っており、話し合いの活動では自分の意見を言い合うことができている。

「がんと聞いてどのようなイメージがあるか？」という問いに対しては、「重い病気」「死んでしまう病気」「怖い病気」などの回答が見られ、「がん」という病気に対して怖い印象を持っている生徒がほとんどである。「がんについてどのようなことを知りたいと思いますか？」という問いに対して、「なぜ、がんになってしまうのか」「ならないためにはどうしたらよいのか」「がんを予防するためにできることは何か」「死亡率はどの程度なのか」「がんが発生するまでの経緯」など、がんを身近に感じ、予防していきたいという気持ちをもっている生徒が多かった。がんは誰しもがなり得る病気であり、子どもでもなる可能性がある。授業を通して、がんの発生要因や予防法、今の生活も将来に影響を与えるということなどを理解させ、自分なりの予防方法を考え、実践していくことががんの予防につながっていくことを実感させることを意識して授業を行った。

２　授業実践

〇授業のねらい

（１）日時　：令和６年１１月２２日(金)

（２）授業者：築地　大輝　教諭

（３）講師　：大山　優　先生　（亀田総合病院腫瘍内科部長）

（４）単元名 ： 生活習慣の健康への影響―がんとその予防

（５）本時の目標

・正しい生活習慣を身に付けることががんを予防するのに有効な手段となることを理解できるようにする。（知識及び技能）

・がんに関する正しい知識を身に付け、予防のために自分にできることを考え選択することができる。（思考力、判断力、表現力等）

（６）本時の展開

過程・時配【学習形態】	学習内容と活動	○指導上の留意点 ☆評価(方法)　◎個別の支援	資料
導　入 ２分 【全体】	0. 外部講師の紹介 1. がんに対するイメージやがんについて知りたいことなどの事前アンケートの結果を見ながら、実態の確認を行う。 ・こわい ・抗がん剤 ・余命宣告 ・がんはどのようにしたら、防ぐことができるのか ・がんはなぜ発生するのか	○パワーポイントを活用し、アンケート結果を確認しながら、がんに対するイメージをはっきりとさせる。	パワーポイント
展　開 １０分 【個】	2. がんによる死亡数のグラフを掲示し、増加していることに気付かせ、がんがどのような病気なのか考えるきっかけをつくる。 ＜意見発表＞ ・がんによる死亡数は年々増加している。 ・1980 年代から、増加率が大きくなっている。	○グラフを掲示し、どんなことに気付いたか意見を聞く。 ◎配布したプリントのどこをやっているのかわかるように個別で指示をする。	ワークシート
	「がん」を防ぐために、自分にできることは何だろう		
３分 【個】 【全体】	3. 「がん」とは何か情報を整理する。 4. がんの原因は何か予想する。 ＜意見発表＞ （予想される回答）・お酒の飲みすぎ ・運動不足　・遺伝　・肥満	○【モジュール 1】のスライド 1～6 を用いてがんのしくみを説明する。 ○外部講師にがんについての追加情報等のお話をいただく。 ◎生徒の発言を拾い、生かす。 ◎生徒の実態に応じて、個別な配慮に対し、対応する。 ○ワークシートに考えを記入する。 ○机間指導をしながら、自分の予想を書くことができているか確認する。 ◎書けていない生徒に声をかける。 ◎どのような意見が出ても称賛し、拍手をするように伝える。	スライド

２５分 【全体】	5. 外部講師の講話から、がんの原因やがんの予防について理解を深める。	○外部講師の講話をしっかり聞かせ、がんについてのポイントをおさえ、理解を深める。 （参考資料） ※がんの原因について 【モジュール 1】スライド 7～12 【モジュール 4】スライド 1～5 ※がんの予防について 【モジュール 4】スライド 6～11	
まとめ １０分 【個】	6. 自分のできるがんの予防方法について考え、体育ノートに記入する。	◎机間指導を行い、体育ノートに記入している内容を確認する。 ☆正しい生活習慣を身に付けることががんを予防するのに有効な手段となることを理解できるようにする。（ノート分析） ☆がんに関する正しい知識を身に付け、予防のために自分にできることを考え選択することができる。（発表・ノート分析）	体育ノート
	がんを防ぐためには、今の生活習慣がとても大切だということが分かった。 生活習慣を正し、がんにならないようにしたい。早期発見もとても大切である ことがわかったので、早期発見できるように検診等に行きたいと思う。		
	7. 自分の考えたまとめを意見交換する。 8. 考えが変わった生徒や新たな気付きのあった生徒 1～2 人が意見を発表する。 ・大人になってから気を付ければ良いと思っていたけれど、今の生活習慣もすごく大切であることが分かった。 ・早期発見が大切なので、検診等は欠かさずに行きたいと思う。 9. 外部講師からメッセージをいただく。	○個々に学習のまとめを行い、そのまとめを他者に伝える活動を行う。 ◎早期に発見することの大切さを理解させたうえで、がんは治せる病気であるということを理解させる。 ○がん検診の有効性も含んだ話を専門家にしてもらい、理解をより深められるようにする。	

（７）当日の様子

（８）単元前後の取組

【授業前】

・講師の先生と、授業内容についての確認、生徒の実態について打ち合わせを行った。

・直近に、病気で近親者を亡くしている生徒がいたため２週間前に話をし、保護者とも相談の上、その授業は別室で対応した。

【授業中】

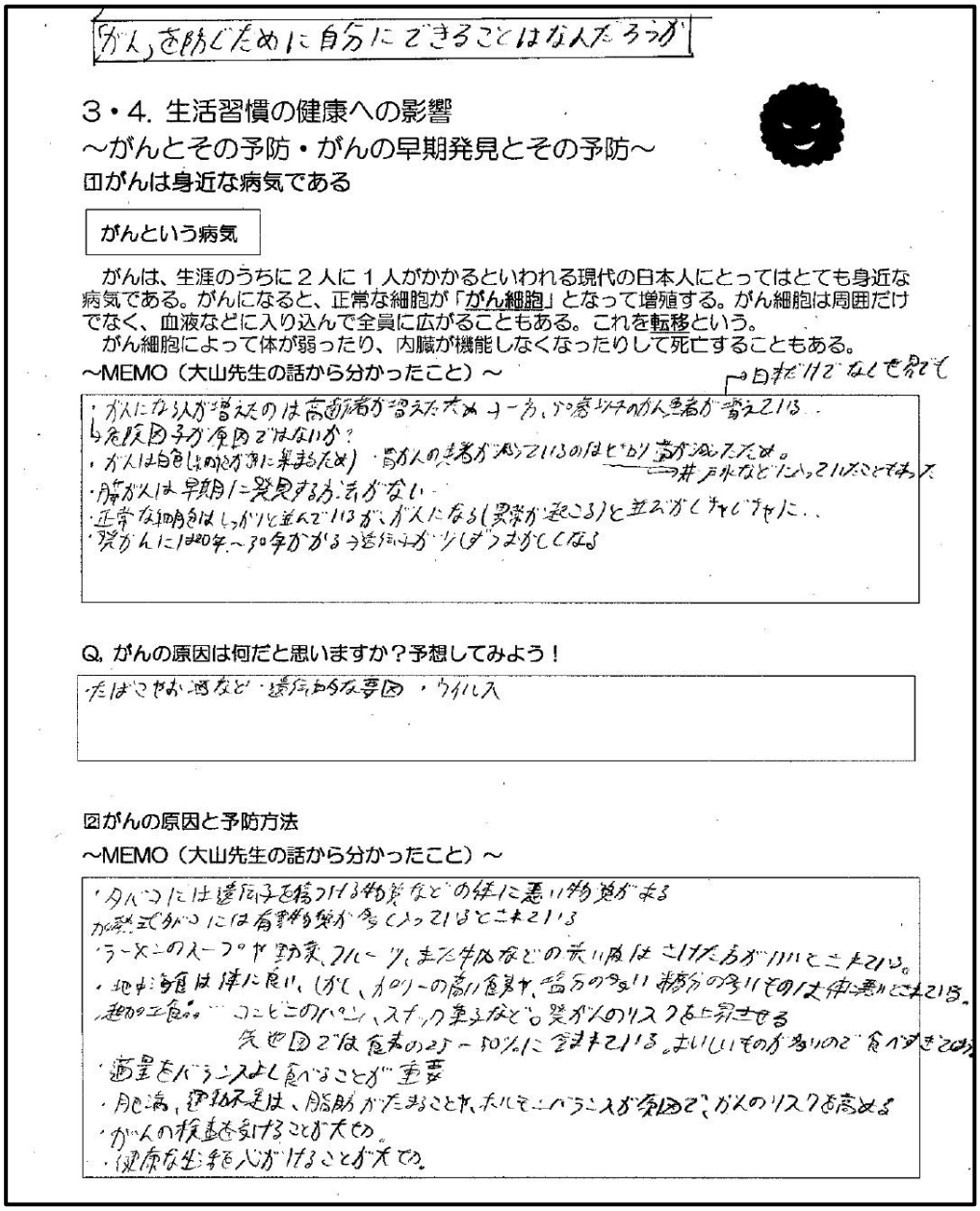
・講師の先生が一方的に話をする形態にならないよう、所々で話に入り、生徒と講師の先生を繋げるようにした。

・がんに関する知識については基本的に講師の先生に話をしてもらうようにして、生徒の反応を見ながら、授業を展開するようにした。

【授業後】

アンケートの実施

（９）生徒のワークシート



「がん」を防ぐために自分にできることはなんだろうか

3・4. 生活習慣の健康への影響

～がんとその予防・がんの早期発見とその予防～

①がんは身近な病気である

がんという病気

がんは、生涯のうちに２人に１人がかかるといわれる現代の日本人にとってはとても身近な病気である。がんになると、正常な細胞が「がん細胞」となって増殖する。がん細胞は周囲だけでなく、血液などに入り込んで全員に広がることもある。これを転移という。

がん細胞によって体が弱ったり、内臓が機能しなくなったりして死亡することもある。

～MEMO（大山先生の話から分かったこと）～

・がんになる人が増えたのは高齢者が増えたため → 日本だけでなくて世界で
→ 一方、子どものがん患者が増えている
→ 原因不明 原因ではないか？
・がんは自己（からだの中に異物）
・がんの患者が減っているのはピロリ菌がなくなったため。→ 井戸水などに入っていたことがあって
・胃がんは早期に発見する方法がない
・正常な細胞はしっかりと並んでいるが、がんになる（異常が起こる）と並びがくずれてきた
・発がんに10年～20年かかる → 遺伝子が少しずつよわくなる

Q. がんの原因は何だと思いますか？予想してみよう！

・たばこやお酒など・遺伝的な要因・ウイルス

②がんの原因と予防方法

～MEMO（大山先生の話から分かったこと）～

・タバコには遺伝子を傷つける物質などの体に悪い物質がある
・熱式タバコには有害物質が多く入っていると言われる
・ラーメンのスープや野菜、フルーツ、また牛肉などの黄色い色はこげた方が良いと言われる。
・地中海は体に良い。しかし、カロリーの高い食事や、塩分の多い・糖分の多いものは体に悪いと言われる。
・和食の工夫。… ここにこのパン、スナックを食べるなど。発がんのリスクを上昇させる
先進国では食事の20～30%に含まれている。おいしいものが多いので食べすぎてしまう
・適量をバランスよく食べることが重要
・肥満、運動不足は、脂肪がたまることや、ホルモンバランスが原因で、がんのリスクを高める
・がんの検査を受けることが大切。
・健康な生活を心がけることが大切。

３　成果と課題

（１）成果

外部講師の専門的な知識や現場経験等の話を伺いながら授業を行い、生徒たちは前向きな姿勢で授業に参加することができ、素晴らしい機会になった。事前のアンケートから、がんに対する知識が不足し、がんは「怖い病気」「死んでしまう病気」という印象があり、不安を感じている生徒が多かった。

今回の授業を通して、今の生活が将来のがん罹患率に大きく関わっていること、普段食べているものの中にも食べ過ぎによる危険が潜んでいるものがあるということなど、生徒自身の生活習慣を見直す機会を作ることができたとともに、正しい知識を理解することができた。

がんを防ぐ明確な方法については、事前に理解できていない生徒が多いことを伝えた上で、自分たちにできることは何かを考え、自分自身の生活習慣を見直そうと感じた生徒が多く、授業後の給食でもメニューに関する話題があがっていた。

がんという病気について正しい知識を伝え恐怖を与えるのではなく、普段の生活を意識することで防ぐことができるという希望を感じることができたように思う。専門家が伝える言葉の重みもあり、生徒はとても意欲的に授業に参加することができた。

（２）課題

生徒の実態の把握が最も重要であると感じた。実際に授業を行ったクラスでも配慮が必要な生徒がおり、細かいところまで実態を把握する必要がある。

外部講師とは、指導案をもとにzoom会議で打ち合わせを行い、授業中の表現の仕方についても細かく確認をした。生徒たちの反応をもとに授業を展開していくことが多いため、授業の展開は基本的に教員が行い、専門的な話をする場面で外部講師に話をしてもらう形がよいのではないかと思う。

外部講師には「どんな話をしてもらいたいか」を事前に確認し、生徒の反応を見る場面も打ち合わせしておくとやりやすく、授業担当者が生徒の実態を正確に把握し、反応を求めながら授業を行わないと講義形式の話になってしまう場合もある。

授業担当者と外部講師が入念に打ち合わせを行うことで、生徒たちに配慮をし、生徒の考えを授業を進めることで、深い学びにつなげていけると感じた。